

令和 3 年度の公開実践の成果と課題について

1 各園の実施概要

本市では、幼稚園・保育園等の相互理解を深めるとともに、幼稚園教諭・保育士等としての資質・能力の向上を図ることを目的に、将来、認定こども園に移行することが予定されている市立幼稚園・公立保育園において「公開実践」を行うこととしていた。

本年度は、8 園で保育を公開した後、実施園・連携園の職員も含め、参加者全員で意見交流を行った。（各園の公開実践の実施概要については資料 2 のとおり。）

2 アンケート結果

実施園・連携園及び参加園を対象に、公開実践が幼稚園・保育園等の相互理解につながるものだったか、幼稚園教諭・保育士等のどのような資質・能力の向上につながるものだったか、他の園との相互理解・交流等につながるものだったかなどについて当日アンケートを実施した。加えて、参加園を対象に、公開実践を通じて得た学びから自園で活用したことや、公開実践後の他園との交流状況の変化などについて、公開実践の日から約 1 か月後に、事後アンケートを実施した。

（アンケート結果については資料 3 のとおり。）

3 公開実践の成果と課題

(1) 成果

- ・ 幼稚園教諭・保育士等の資質・能力の向上に向けては、参加者が、具体的な場面から同じ視点で保育を捉えることを通して、環境構成や援助の工夫、子ども一人一人に応じた保育者の関わり、子どもの主体性を尊重した保育の展開等について学び合うことができた。また、意見交流の中で多様な意見に触れることにより、参加者の子どもの見方や保育に対する考え方を広げることができた。
- ・ 幼稚園・保育園等の相互理解を深めることに向けては、参加者が、実際の保育場면을基に子どもについて語り合うことで、施設種別を問わず、子どもに育みたい資質・能力や子どもへの思いは同じであると認識できた。また、一部では、公開実践で関わりを持った園同士が、積極的に情報交換する、自園の公開保育に参加を呼び掛けるなど、地域での交流を育む契機となった。
- ・ 幼児教育・保育の質の向上に向けた各園の自立的な取組として、一部の園では、公開実践で学んだ環境構成の改善や、保育の改善に向けた職員間での情報共有や話し合いなどが行われた。

(2) 課題

- ・ 今年度は、取組初年度であったため、公開実践を案内する園数を限定していたが、目的に沿った一定の成果が見られたことから、地域全体の幼児教育・保育の質の向上に向けて、公開実践に多くの園等が参加できるようにしていく必要がある。また、公開実践は、幼稚園教諭・保育士等が気軽に参加できるよう、短時間で実施されるものであることや日常の保育参観に近いものであることについて、情報発信していく必要がある。
- ・ 参加園の当日アンケートでは、ほぼ全ての園が、幼稚園・保育園等の相互理解・交流等につながると回答していたものの、事後アンケートでは 8 割の園が公開実践前と交流状況は変わらないと回答していることから、地域の各園等が恒常的に交流する関係を構築し、これを継続・発展できるようにしていく必要がある。
- ・ 参加園が、当日アンケートにおいて自園の保育に活用できると感じた回答項目と、事後アンケートにおいて実際に活用した回答項目を比較すると、ほとんどの項目で割合が下がっていることから、各園等が自立的・継続的に質の向上に取り組むことができるようにしていく必要がある。